

令和6年12月25日

実施報告書

文部科学大臣 殿

申請者（主催者代表）

団体名 独立行政法人国立美術館

代表者職・氏名 国立新美術館長 逢坂 恵理子

申請者（主催者代表）

団体名 読売新聞東京本社

代表者職・氏名 取締役事業局長 山田 隆

展覧会における美術品損害の補償に関する法律に基づいて令和5年12月27日に文部科学大臣と美術品補償契約を締結した展覧会が終了しましたので、実施報告書を提出します。

1. 開催概要

展覧会名	マティス 自由なフォルム	
開催施設名	会期	入場者数
国立新美術館	2024 年 2 月 14 日(水)～5 月 27 日(月)	26 万 6,636 人
●開催概要 ※申請書に記載した当初の趣旨・目的等の達成状況について、データを提示しながら記入 ※展覧会評・レビューがあれば、その出典・要旨を提示し、展覧会の客観的な評価を記入 20 世紀美術最大の巨匠の一人、アンリ・マティス(1869～1954)の画業を、初期から最晩年にいたる作品を中心に約 150 点もの規模で紹介する展覧会。会場には、ニース市マティス美術館の所蔵作品を中心に、最晩年に取り組んだ究極の技法による作品「切り紙絵」に焦点をあてながら、絵画、彫刻、版画、テキスタイル等の作品や資料を並べた。加えて、マティスが最晩年にその建設に取り組んだ、芸術家人生の集大成ともいえるヴァンスのロザリオ礼拝堂にも焦点をあて、内部空間および移ろう光の再現を通して、マティスの至高の芸術を紹介することができた。 マティスの切り紙絵にフォーカスした展覧会は国内初であり、更にニース市マティス美術館の作品がまとまって来日する機会は初めてということもあり、メディアなどでは美術各誌の年末号「2024 年の注目展覧会」や「AERA Art Collection」(2024 年 2 月 13 日販売)、「MOE4 月号」(2024 年 4 月 3 日発売)をはじめ様々な媒体で取り上げられ、ロザリオ礼拝堂の再現については特に注目を集め、大きな反響を呼んだ。一般の来場者からも「切り絵という視点からマティスの他の媒体の作品を観ると違った印象を受けて大変興味深かった」「ヴァンスのロザリオ礼拝堂の再現展示が日差しの向きが変わるなど体験型で良かった」など感嘆の声が多く聞かれた。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

※申請書に記載した、補償制度活用による国民的利益(軽減された保険料の使途、効果等)の達成状況について、データを提示しながら記入 申請時に見込んだ軽減額 1738 万円を別紙のとおり還元した(別紙参照)。

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

※ヒヤリハット事例とは、事故には至らなかったものの、事故となってもおかしくなかった一歩手前の事例をいう。文字通り突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの
会期中、以下の通り1件のヒヤリハット事例が発生した。

【経緯】

- ・5月22日(水)11:20頃、第3章の「バーンズ財団の<ダンス>」の部屋でスポットライトのカバー(中にレンズがある、幅14.5cm×厚さ6cm、重さ345g)が落下し破損した。
- ・当時、当該展示の部屋には、来場者が10～15人程度、監視員1人がおり、巡回制服警備がかけつけ、その後、運営責任者もかけつけた。運営事務局から美術館、読売へ連絡。
- ・現場の来場者に怪我人はいないことを確認
- ・前日の21日(火)休館日に、ハロゲンランプが切れたスポットライトを4か所交換した。今回、カバーが落下したのはこのうちの1つ。

【原因】

- ・スポットライトとフィルターを繋ぐ落下防止のための当該ワイヤーのカシメが経年劣化のため破損していた。

【対策】

- ・21日(火)に交換したスポットライトについて、残りの3つについては、1つはワイヤーの無い異なる種類の照明で落下の危険性が無く、1つは目視でワイヤーの固定が確認でき、もう1つは目視で確認が難しかったため、そのスポットライトの下には立ち入りができないよう結界を広げた。
- ・翌日22日(水)閉館後に、前日交換したスポットライトに加え、他のスポットライトについても確認を行い、問題ないことが確認できたため、追加処置は行わず展覧会運営を継続した。

4. 安全配慮に関する特別の対応

※事故を防止するために実施した特段の安全配慮(特に、輸送や梱包に関することや、展示に関して、他展にも参考となりうること)を記入

- ・往復輸送便、陸路移動時のトラックにはニース市マティス美術館のクーリエが随行し、貸与作品の開梱、展示、撤去、梱包時にも立ち会い、作品の安全に細心の注意を払った。日本国内作業・輸送については必ず主催者スタッフも立ち会い、監督した。
- ・作品の安全管理のために、所蔵館との契約に基づき相対湿度50%(+/-5%)、温度21℃(+/-2℃)、照度絵画作品:200-300ルクス、グラフィック作品:50ルクスに維持した。
- ・ニース市マティス美術館での梱包時、国立新美術館での開梱・再梱包時、およびニース市マティス美術館に返却された際の開梱時の各段階でコンディション・チェックを行い、ニース市マティス美術館のクーリエが調書へ記入・署名を行った。
- ・日本側のコンサヴァターは国立新美術館での開梱・再梱包時のコンディション・チェックに加え、会期中の中間点検でも調書へ記入・署名を行った。
- ・会場には結界を設置し、鑑賞者による接触事故リスクを最小限にとどめる配慮を行った。
- ・《花と果実》設営においてはニース市マティス美術館にて同作品展示を担当したフランス本国のアートハンドラーにも来日してもらい、その指導の元、安全に作業を行った。また、同作の近くに看視スタッフを追加し、特に注意深く対応した。

5. 紹介事例・今後の改善点等

※国民の優れた美術品を鑑賞する機会の充実という観点から、主催者の自己評価等を記入。その際、他の美術館の参考となる好事例や改善点等を積極的に記入

本制度の適用によって、ニースのモナ・リザとも言われる名作《ブルー・ヌード IV》や門外不出の大作《花と果実》をはじめとした切り紙絵を中心に、初期の油彩画、マティスの愛蔵品など多数の貴重な作品・資料が出品されたことは、「広く国民にすぐれた美術品鑑賞の機会を提供する」という本制度の趣旨に合致する。

また、その建設背景に日本と深い関わりがあるヴァンスの礼拝堂の再現展示を通してマティス芸術の集大成を紹介することが出来たことは大変意義深く、日本の鑑賞者にとって大切な機会であったと考える。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名 国立新美術館、読売新聞社

●収入

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入	【入場料】 当日一般2,200円 当日大学生1,400円 当日高校生1,000円	476,370,000 (400,000,000)
	【図録売上】 3,300円×15,349冊	50,651,700 (33,000,000)
	【関連グッズ売上】	121,550,000 (20,000,000)
	【その他】 音声ガイド売上手数料	13,340,000 (7,500,000)
その他の収入	【協賛金・寄附金】	53,900,000 (50,000,000)
	【補助金・助成金】 (※開催分担金を含む。) 読売新聞社による赤字補填	0 (87,800,000)
	【その他】 (※自治体・本社等からの赤字補てん分などを記入する。)	
赤字	【補填内容】	
収入総額		715,811,700 (598,300,000)

●支出

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	【借用料】	73,000,000 (76,000,000)
	【謝金】 ※著しく高額の場合は、その理由を別紙(任意様式)に記入	2,500,000 (2,500,000)
	【保険料】 ※制度適用された場合の金額	13,500,000 (10,480,834)
	【輸送費】	162,080,000 (150,000,000)
	【クーリエ等招聘費】	25,500,000 (20,000,000)
	【図録制作費】	32,100,000 (20,000,000)
	【その他印刷費】	15,700,000 (11,000,000)
	【企画構成費】	11,000,000 (9,900,000)
	【その他(交渉費・職員旅費等)】	3,150,000 (2,400,000)
	【広告・宣伝費】	82,000,000 (55,000,000)
設営・運営等会場関係経費	【展示施工費】	80,800,000 (60,000,000)
	【会場事務費】 (国立新美術館観覧料配分)	119,060,000 (95,000,000)
	【監視・警備費】	78,800,000 (71,500,000)
	【その他】 販売手数料、式典経費等	16,621,700 (14,519,166)
利益	【利益の使途】	()
支出総額		715,811,700 (598,300,000)

※各区分又は総額において、予算額と決算額において30%以上の開きがある場合は、その理由を別紙(任意様式)に記入
※利益が生じた場合は、その使途を必ず具体的に明記
※特に秘すべき事項がある場合には、公開用資料を別途作成し、適宜区分を整理又は工夫して提出

申請時の予想より来場者数が上回ったことから、図録収入、音声ガイド収入が増加した。
多彩な商品開発と経営努力により単価が向上したほか、来場者数自体も予想を上回ったことから、
関連グッズ収入が大幅に増加した。
図録の部数増にともない、制作費が増加した。
広報宣伝により注力したことにより、広告・宣伝費が増加した。

【別紙】2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

	申請時の概算根拠	申請時金額	実際の費用内訳	実費
(1)鑑賞機会の拡大	入場料を大学生1人1,600円のところ1人1,400円に、高校生1人1,200円のところ1人1000円にすることで、若い世代の鑑賞機会を創出。 ①大学生(1600⇒1400)料金の減額 ・大学生 200円×想定動員数19750人=395万円 ②高校生(1200⇒1000)料金の減額 ・高校生 200円×想定動員数1950人=39万円 ①+②=434万円	¥4,340,000	大学・高校生の入場料減額に加え、高校生無料観覧デーを実施。 ①大学生(1600⇒1400)料金の減額 ・大学生 200円×来場者数17,925人=3,585,000円 ②高校生(1200⇒1000)料金の減額 ・高校生 200円×来場者数2,622人=524,400円 ③高校生無料観覧デー 4月3日～8日 6日間実施 369名×1000円=369000円 ①+②=4478400円	¥4,478,400
(2)展示作品の質・量の充実	国家補償適用が承認され、保険料の負担が軽減されることを想定し、展示内容をより充実させた。具体的には、以下作品の出品が可能になった。 【1】No.87《ブルー・ヌードⅣ》、No.104《大きな顔、仮面》、No.37《野兎を食うジャガー(ハリーに基づく)》 (いずれもオルセー美術館蔵／ニース市マティス美術館寄託)を追加で借用できるようになった。 ①(借用料ほか作品関係費7,756万円+保険料981万円)×3.19%=279万円 ②(借用料ほか作品関係費7,756万円+保険料981万円)×0.21%=18万円 ③(借用料ほか作品関係費7,756万円+保険料981万円)×0.11%=10万円(96,107円) ①+②+③=307万円 (2)輸送費・クレート製作費240万円 (1)+(2)=547万円 【2】マティスの重要作品である《日本の仮面》(個人蔵、国家補償申請対象外作品)をアメリカから借用できるようになった。 (1)輸送 ①往路 製函代:15万円+輸送費(陸送・空港立会いなど含む)55万円+航空運賃15万円=85万円 ②復路 輸送費(陸送・空港立会いなど含む)55万円+航空運賃13万円=68万円 ①+②=153万円 (2)保険料 34万円 (1)+(2)=187万円 【1】+【2】=734万円	¥7,340,000	【1】No.87《ブルー・ヌードⅣ》、No.104《大きな顔、仮面》、No.37《野兎を食うジャガー(ハリーに基づく)》 ①(借用料ほか作品関係費7,756万円+保険料1123万円)×3.19%=283万円 ②(借用料ほか作品関係費7,756万円+保険料1123万円)×0.21%=19万円 ③(借用料ほか作品関係費7,756万円+保険料1123万円)×0.11%=10万円 ①+②+③=312万円 (2)輸送費・クレート製作費 ①往路輸送費・クレート製作費(陸送・空港立会・航空運賃など含む) 5892万円(フランスからの輸入作品150点分)×0.02(該当作品3点) =118万円 ②復路輸送費 5243万円(フランスからの輸入作品150点分)×0.02(該当作品3点) =104万円 ①+②=222万円 (1)+(2)=534万円 【2】《日本の仮面》 (1)輸送 ①往路 輸送費(陸送・空港立会・航空運賃など含む)128万円※製函代はかからず ②復路 輸送費(陸送・空港立会い・航空運賃など含む)113万円 ①+②=241万円 (2)保険料 41万円 (1)+(2)=282万円 【1】+【2】=816万円	¥8,160,000
(3)教育普及活動の充実	①展覧会会期中、本展監修者のクロディヌ・グラモン氏(前ニース市マティス美術館館長)や日本人専門家による講演会など関連イベントを実施予定。 イベント実施費用 50万(謝金・通訳・運営費等)×2回=100万円 ②図録の内容の充実と減額 図録の内容を充実させたところ、約200万円の経費増が見込まれたが、より多くの人の手に届きやすくするために当初予定の上代金額を据え置きにする。 ページ増等による制作単価増分 200円(1部あたり)×10000部=200万円 ③作品理解を促す動画等を制作する。 動画編集費・機材費など270万円 ①+②+③=570万円	¥5,700,000	【1】展覧会会期中、以下のイベントを実施。 ①本展監修者のクロディヌ・グラモン氏(前ニース市マティス美術館館長)による特別講演会 20万600円(謝金・通訳代など) ②松井ユカ氏(美術家)、マチュー・セゲラ氏(歴史家)による切り紙絵ワークショップ 15万円(謝礼・材料費・運営費) ③岡崎乾二郎(造形作家、批評家)×米田尚輝(本展監修者)による対談 5万円(岡崎氏への謝金他) ①+②+③=400,600円 ②図録の内容の充実と減額 図録の内容を充実させたところ、約200万円の経費増が見込まれたが、より多くの人の手に届きやすくするために当初予定の上代金額を据え置きにする。 ページ増等による制作単価増分 200円(1部あたり)×16,000部=320万円 ③作品理解を促す動画制作 114万円(動画静止画撮影・編集費) 【1】+【2】+【3】=4,741,600円	¥4,741,600
合計		¥17,380,000		¥17,380,000